

# 「金正恩時代」の「音楽政治」

## 牡丹峰楽団を中心に

森 類臣

(大谷大学)

はじめに

本稿では、金正恩國務委員長（以下、職位は省略）<sup>(1)</sup>が朝鮮民主主義人民共和国（以下、DPRK）の最高指導者となった後の同国の「音楽政治」について論じる。ただし、音楽界全体を扱うことは紙幅の関係上難しいので、いわゆる「金正恩時代」の音楽の最大の特徴と見られる軽音楽に論点の中心を置く。

まず、「音楽政治」という概念について説明したい。音楽政治は、2000年2月7日に4.25文化会館で行われた人民武力省音楽発表会において初めて提起された概念である（宋明男 2015: 164）。

『20世紀文芸復興と金正日 5 音楽芸術』の冒頭論文「音楽政治の新しい経緯を繰り広げられた絶世の偉人」では、金正日国防委員長（以下、職位は省略）が「音楽を政治の力ある手段として、革命闘争の威力ある武器として積極活用」したと言及し、音楽分野における金正日のこれまでの指導について「音楽政治」という概念で包括した（朝鮮文学芸術総同盟中央委員会 2002: 13）<sup>(2)</sup>。同じ文脈で、朝鮮中央通信は「音楽政治は偉大な金正日同志によって初めて定式化され具現された」としている（朝鮮通信 2014年5月10日<sup>(3)</sup>）。

一方で、「音楽政治」という用語が登場した当時は、金正日のこれまでの音楽分野の業績全体を包括する概念ではなかった。「音楽政治」は、1990年代から始まったいわゆる「苦難の行軍」期の末期に登場した概念であり、当時の時代精神を多分に帯びた言葉である。ハスンヒによると、「音楽政治」という用語は元来、先軍政治と密接した概念であり、先軍政治の実現に寄与するものであつ

た（ハスンヒ 2015: 234）。したがって、「金正恩時代」に本格的に入って約6年半経過した現在では、「音楽政治」という言葉は、いわゆる「金正日時代」に比べてあまり使われなくなったように見える。しかし、朝鮮中央通信は「絶世の偉人の音楽政治は敬愛する金正恩同志によって輝かしく継承発展している。牡丹峰楽団の革命的で人民的で斬新な芸術活動がこれを証明している」と論評しており（朝鮮中央通信 2014年5月10日<sup>(4)</sup>）、「音楽政治」という概念は、その定義する範囲が用語が登場した当時とは違おうとしても、「金正恩時代」において一定程度機能しているとみてよいだろう<sup>(5)</sup>。

DPRKでは、2012年3月に金正恩の直接的な指導の下に、軽音楽団である牡丹峰楽団が創立された（趙雄鉄 2014: 173）。牡丹峰楽団の実質的デビュー公演は2012年7月6日に開かれた「示範公演」であった。この「示範公演」の映像は、DPRKが直接運営するウェブサイトや、YouTubeなど大手の動画共有サイトを通して拡散されたが、大韓民国（以下、韓国とする）はもちろん、日本や中国・アメリカ・ヨーロッパなどの研究者、ジャーナリストの間で話題になった。少なくとも印象としては、牡丹峰楽団の公演模様と既存のDPRK文化に対するイメージの間に大きな差異があったためである。牡丹峰楽団の公演は、アメリカやヨーロッパ、日本や韓国の軽音楽団に見られるような現代的な公演スタイルをとり入れていた。演奏方法から演出、舞台装置・舞台美術、出演者の衣装に至るまでこれまでの音楽団のスタイルとは大きな違いが見られた。このような牡丹峰楽団の公演スタイルは、DPRKの住民にも衝撃を与えたようである<sup>(6)</sup>。

牡丹峰楽団は、DPRK の公式報道で確認できる限り、現在（2018年7月末）までで合同公演を含めて50回の公演を行った<sup>(7)</sup>。同楽団はすでに「金正恩時代」の代表的な楽団として DPRK 内外に認識されていると言ってもよい。

また、2015年7月にはもう一つの軽音楽団である青峰楽団が創立された。牡丹峰楽団とはまた違う特徴を持つこの楽団は、DPRK 公式メディアで「もう一つの前途洋々たる革命的芸術団体」と紹介された。この時点で、青峰楽団は牡丹峰楽団とともに「金正恩時代」の軽音楽路線を牽引するもう一つの楽団になると予想された（朝鮮中央通信 2015年7月28日<sup>(8)</sup>）。

## 1. 「金正恩時代」の音楽に関する先行研究の検討

まず、韓国における DPRK 音楽研究について先行研究を確認したい。ここでは、「金正恩時代」の音楽を扱った代表的な学術論文をいくつか検討した。

時宜的な意味で先駆的成果を出したものとしてはカンドンワン（2014; 2015）の研究を挙げることができる。カンドンワン（2014）は牡丹峰楽団を「金正恩時代」のアイコンとして規定し、動画共有サイトなどで公開されている牡丹峰楽団公演動画を入手し詳しく分析した。その手法は、各公演の演目などを整理した後にその特徴をあぶり出すというオーソドックスなものであったが、一方で歌手・演奏者の服装など視覚的な部分も重要なメッセージを含むものとして注目した。研究結果を単行本として公刊したのも2014年と比較的早い時期であった。このような点でカンの研究は一定以上の意味を持っている。しかし一方で、カンの研究は表面的な分析に留まっている傾向がある。DPRK の芸術理論（美学理論）や音楽史を踏まえたくて牡丹峰楽団を分析しているとは言い難いからである。牡丹峰楽団という現象の特徴については整理しているが、DPRK 音楽史における牡丹峰楽団の意味や役割などを分析する視点が弱い。これは、カンがこれまで DPRK の芸術理論・芸術史を専門にしてきたわけではないということに原因があると推測できる。

一方、芸術理論や芸術史を踏まえながら牡丹峰楽団を分析したのがチョンヒョンシク（2015）である。チョンヒョンシクは牡丹峰楽団の音楽的特性に注目し、DPRK 社会における宣伝扇動としての牡丹峰楽団の意味を考察し、さらに住民統合においてどのような役割を果たしているのかを論じた。牡丹峰楽団の基本情報を整理し、その音楽的特性を美学原則と音楽様式に分けて論じた。チョンヒョンシクによるこの論文は、現時点までの牡丹峰楽団研究の中で、最も総合的で水準が高いと評価することができる。

牡丹峰楽団に注目した研究者は韓国だけではない。中国における研究のうち徐玉蘭（2016）は注目に値する。徐玉蘭は政治コミュニケーション理論を援用して牡丹峰楽団を解釈した。その解釈は、金正恩が『労働新聞』と牡丹峰楽団を「人民」とのコミュニケーションの媒体として確立し、新しい政治理念と政策を伝播させたということである。このように、メディア・コミュニケーション論的な見地から牡丹峰楽団を解釈していく視角は森類臣（2015）と共通している。徐玉蘭の解釈は政治社会学的な見方であり、DPRK の音楽団の役割を分析する方法として有用である。一方で、徐玉蘭が述べる『労働新聞』と特定音楽団を政策伝達者と規定する解釈は新しい視点であるとは言えない。「金正日時代」も『労働新聞』と特定楽団を重要な政策伝達者として規定していたからである。時期によって内容の差は多少あるが、DPRK 社会において『労働新聞』を始めとする公式メディアと芸術の役割は根本において同質性を持っている<sup>(9)</sup>。このような公式メディアと芸術の役割は、「金正日時代」と「金正恩時代」で本質的な差異があるわけではない。さらに言えば、DPRK 社会において付与されている音楽の基本概念および役割は「金正日時代」と「金正恩時代」で理論面における変化はほぼない。このような点はチョンヒョンシク（2015）でも指摘されている。

日本では、森類臣による一連の発表と論文（2015; 2016; 2018）がある。森は、メディア・コミュニケーション理論を援用して牡丹峰楽団を情報発信者と受信者の間に存在する媒体として解釈している。森によれば、牡丹峰楽団は最高指導者のメッセー

ジを伝える媒体であると同時に牡丹峰楽団自体がメッセージである。森は、メディア・コミュニケーション論的なアプローチと同時並行して DPRK 音楽界の楽団系譜から牡丹峰楽団を解釈する作業を展開している。

また、日本で韓国朝鮮語で書かれた重要な論文として宋明男(2015)がある。宋明男は、「金正日時代」に編成・創立された功勳国家合唱団から牡丹峰楽団へ続く連続性を指摘している。宋明男は功勳国家合唱団が「苦難の行軍」期を背景に先軍政治の一環として創立されたことを強調し、功勳国家合唱団の政策的意味を①革命的軍人精神の普及と一致団結の強化という文化統合 ②先軍政治体制を完備することによって社会主義を守るという戦略的目的、という二つに整理した。宋明男(2015)は、功勳国家合唱団から牡丹峰楽団につながる連続性について、形式と内容における詳しい説明を展開しているわけではないが、思想的意味において先軍政治を継承した「金正恩時代」には「金正日時代」との政策的連続性があると解析している。

英文による研究成果としては、Cathcart および Korhonen (2017a; 2017b) が代表的である。Cathcart および Korhonen (2017a) は、「金正日時代」から「金正恩時代」への移行期に着目し、権力移行が音楽表象においてどのように行われたのかを分析した。また、Cathcart および Korhonen (2017b) は、牡丹峰楽団のパフォーマンスと関連文献の分析をし、DPRK 社会において音楽文化は生活の重要な側面であり政治的正当性・正統性の担い手であることに言及している。

以上、代表的な先行研究を紹介したが、先行研究のほとんどは牡丹峰楽団が「金正恩時代」の「音楽政治」の代表であるという前提のもと、分析を行っている。牡丹峰楽団の分析を通して「金正恩時代」の一断面をあぶりだそうという試みであると評価できる。

## 2. 牡丹峰楽団の特性分析

ここからは、牡丹峰楽団の具体的な分析を始めたい。「はじめに」で言及したように、牡丹峰楽

団は2012年3月に創設された(趙雄鉄 2014: 173)。創設から約4か月間の準備を経て、2012年7月8日に「示範公演」を行い、この公演を通して牡丹峰楽団の存在が国内および海外に知らされた。牡丹峰楽団は、「新世紀の要求に合わせて」作られた楽団であり、「内容において革命的かつ戦闘的であり、形式において新しく独特で現代的でありながらも人民的なもので一貫されている」というのが DPRK の見解である(『労働新聞』2012年7月9日)。内容と形式に分けて芸術の性格を規定するのは、社会主義リアリズム発祥以来の伝統ともいえるべきものである。社会的リアリズムについては、スターリンが1930年7月のソ同盟共産党第16回大会で提示した「内容においては社会主義的、形式においては民族的」というテーゼが有名であるが<sup>(10)</sup>、金正日も著書『音楽芸術論』<sup>(11)</sup>で、DPRK が志向すべき音楽について、「ピバダ(血の海)式歌劇」を手本として上げながら「内容において革命的で社会主義的であり、形式において人民的で民族的な社会主義・共産主義音楽芸術」であると規定している(金正日 1992: 129)。

なお、本稿においては、楽団に対する直接的な接近方法(例えば参与観察)がほぼ不可能であるため、動画共有サイトなどで公開されている牡丹峰楽団の動画を収集し分析することを研究方法の基本とし、音楽史や音楽理論的な側面については DPRK 発行の文献を一次資料とすることとした。

### (1) 楽団の系譜

ここでは、牡丹峰楽団を DPRK の楽団系譜に位置づける。本稿では、楽団系譜を便宜的に①歌劇団系譜②クラシック楽団系譜<sup>(12)</sup> ③合唱団系譜④軽音楽系譜<sup>(13)</sup> に分類した。朝鮮中央通信で確認できるように、牡丹峰楽団は基本的に「金正日時代」の重要な軽音楽団だった普天堡電子楽団を継承している(朝鮮中央通信 2012年12月31日<sup>(14)</sup>)。したがって、DPRK の内在的な視点で牡丹峰楽団を捉えるならば、「金正日時代」の軽音楽団が「金正恩時代」に発展・進化したものが牡丹峰楽団であると解釈できる。

「金正日時代」の DPRK の代表的な軽音楽団は旺載山軽音楽団(2010年頃「旺載山芸術団」に改

称。以下、旺載山芸術団とする）と普天堡電子楽団であった。旺載山芸術団は1983年7月22日に万寿台芸術団の一部門から分岐する形で創設された。歌手・演奏家・舞踊家で構成される軽音楽団であり、民謡を電子楽器と西洋楽器を基に現代的に改良して演奏するのを専門分野としていた。特に、女性舞踊家の大胆で現代的な舞踊がその特徴だった。

一方、普天堡電子楽団は1985年6月4日に、万寿台芸術団の電子音楽演奏団を分岐する形で創立された。電子楽器編成（ギター、ベース、キーボード、ドラム）が基本である。楽器演奏者は基本的にバックアップバンド（Backup band）の役割をしており、主役は女性歌手である。楽器演奏者は男性、メインボーカルは女性というケースがほとんどであった。

牡丹峰楽団は普天堡電子楽団には見られなかった音楽的特性を多数備えている。その特性は、単純に普天堡電子楽団が発展したという論理では説明がつきにくい。特性の一つが、インストロメンタル・ミュージック（instrumental music）である。牡丹峰楽団はクラシック音楽、特にインストロメンタル・ミュージックを公演に取り入れている。これは、少なくとも形式的には銀河水管弦楽団および万寿台芸術団三池淵音楽団の影響を大きく受けていると見ることができる。つまり、牡丹峰楽団はクラシック音楽系の流れをも受け継いでいると指摘できる。楽長である鮮于香姫が「第1ヴァイオリン」を担当しているのはこの傍証となろう。第1ヴァイオリンという名称は明らかにクラシック音楽の用語である。鮮于香姫は、万寿台芸術団三池淵音楽団における有能なバイオリニストだった。

さらに、牡丹峰楽団は、楽器演奏者と歌手の分業はあるが、パフォーマンスにおいては演奏者と歌手の両方が主役である。楽器演奏者は単純なバックアップバンドに終わらず、ヴァイオリンを中心にしたインストロメンタル・ミュージック（instrumental music）を演奏することによって、主役として舞台上に登場する。このような形式は以前のDPRK楽団では見られなかったものである。韓国や日本、欧米などでよく見ることができる軽音楽（ポップスやロックなど）の形式とも違う。

このように、DPRK内の楽団系譜という内在的視点で捉えれば、牡丹峰楽団は軽音楽系列音楽団の変化と把握できるが、少くとも形式における変化は単純にDPRKの内的な要素から起こったわけではないだろう。明らかに国外から受けた影響があったと指摘できる。その一つとして、オギヒョン（2014）が指摘するように南北音楽交流の影響および成果を上げられる。南北文化交流の一環としてDPRKで披露された韓国音楽の公演スタイルが、DPRKの音楽界に多くの影響を及ぼしたという指摘である。もう一つは、90年代以後特にヨーロッパで始まって世界的に流行したクロスオーバーエレクトリックオーケストラ（crossover electronic orchestra）の影響である。この部分に対しては後ほど検討する。

## （2）楽団構成員の分析

牡丹峰楽団は楽団管理職以外の構成員は全て女性である。歌手および演奏者を女性で統一する形式、いわゆるオールフェメールバンド（All-female band）は世界的に見れば珍しくない。だが、DPRK社会ではそれなりに意味のある変化と見ることができる。韓国や日本、中国・台湾でオールフェメールバンドが定着し、特に韓国のいわゆる「女性アイドルグループ」がトランスナショナルに人気を得ていることを思えば、DPRKも東アジアの潮流を取り入れ始めたとも見てもおかしくない。

### 特徴1：歌手・演奏家の特徴

【表1】に示した通り牡丹峰楽団の構成員は、現在確認できる限り歌手13名と演奏者16名である<sup>(15)</sup>。それぞれがDPRKで一流の技量を持つ歌手と演奏者であり、人数を考えると中規模楽団と言える。ただ構成員全員が一度に舞台上に上がることはなく、公演の性格により構成員が交代で出演する。

【表2】に示した通り、楽器構成はヴァイオリン<sup>(17)</sup>、チェロ、ギター、ベースギター、サクソフーン、ドラム、パーカッション、ピアノ、シンセサイザーである。

牡丹峰楽団に移籍する前の構成員の経歴を見ると、DPRK国内の有名楽団出身という人物もいる。例えば鮮于香姫（楽長兼第1ヴァイオリン）や金香淳（シンセサイザー）は万寿台芸術団三池淵楽

表1 牡丹峰楽団の歌手<sup>(16)</sup>

名前	称号	軍階級	経歴
金雪美	功勳俳優	陸軍上尉	不明（民謡歌手）
金佑景	功勳俳優	陸軍大尉	不明
羅佑美	功勳俳優	陸軍少尉	不明
劉振雅	功勳俳優	陸軍中尉	不明
李玉花	功勳俳優	陸軍中佐	旺載山芸術団団員、普天堡電子楽団団員（牡丹峰重奏組）、 銀河水交響楽団団員（牡丹峰女性6人組）
朴美京	無	陸軍中尉	銀河水交響楽団団員
チョグッキャン [조국향]	無	陸軍中尉	栗谷高級中学校卒業
鄭水香	無	陸軍少尉	旺載山芸術団団員
キムヒヨシム [김효심]	無	陸軍中尉	不明
李明姫	無	陸軍少尉	不明
リスギョン [리수경]	無	陸軍中尉	不明
朴善香	無	陸軍中尉	不明
オスヨン [오수연]	無	陸軍中尉	不明

表2 牡丹峰楽団の楽器演奏家

名前	担当楽器	軍階級	経歴
鮮于香姫	第1ヴァイオリン／楽長	陸軍大尉	金元均音楽総合大学（前 金元均平壤音楽大学）卒業 万寿台芸術団女性器楽重奏団団員 万寿台芸術団三淵池楽団団員
洪秀卿	第2ヴァイオリン	陸軍中尉	旺載山芸術団
車英美	ヴァイオリン	陸軍少尉	旺載山芸術団
金ウンハ [김은하]	ヴァイオリン	陸軍中尉	不明
俞恩貞	チェロ	陸軍中尉	不明
カンピョンヒ [강명희]	ギター	陸軍少尉	金元均音楽総合大学（前 金元均平壤音楽大学）卒業
チョギョンヒ [조경희]	ギター	陸軍中尉	不明
李雪蘭	ベースギター	陸軍上尉	不明
全惠蓮	ベースギター	陸軍中尉	不明
崔貞任	サクソ	陸軍中尉	不明
李潤熙	ドラム	陸軍少尉	不明
韓純情	パーカッション	陸軍中尉	不明
キムジョンミ [김정미]	ピアノ	陸軍中尉	不明
金英美	ピアノ, シンセサイザー	陸軍中尉	銀河水管弦楽団団員
李熙景	シンセサイザー	陸軍大尉	不明
金香淳	シンセサイザー	陸軍中尉	万寿台芸術団三池淵楽団団員

団出身であり、洪秀卿（第2 ヴァイオリン）、車英美（ヴァイオリン）、は旺載山芸術団出身である。また、金英美（ピアノ、シンセサイザー）は銀河水管弦楽団出身である。特に鮮于香姫の演奏の技量は非常に高く、金正恩もその実力を認定した（『労働新聞』2012年7月9日）。一方で、チョグッキャンのように高級学校卒業後すぐに大抜擢されたケースもある。

## 特徴2：軽音楽分野における最優秀スタッフが集結

【表3】で示した通り牡丹峰楽団の団長は玄松月である。玄松月は DPRK 社会で有名な人気歌手だった。旺載山芸術団や普天堡電子楽団で歌手として活動した後に活動休止状態となったが、2012年3月8日に開催された銀河水管弦楽団による「2013年3・8国際婦女節記念 銀河水音楽会」においてゲスト出演し「駿馬の乙女」を歌ったことで、その健在ぶりが確認された。玄松月が牡丹峰楽団の団長に着任したということは、DPRK 音楽会に存在する数ある実力派音楽家の中でも玄松月の音楽的技量および政治的力量が跳びぬけており、金正恩の信任が厚く、その知名度ゆえ DPRK 住民も納得できる人事であったと見ることができる。

副団長はファンジニョンとキムウルリョンが務め、創作室室長はウジョンヒ、創作室副室長はアンジョンホが担当している。牡丹峰楽団の作曲陣

は副団長であるファンジニョンは普天堡電子楽団の副団長を務めた著名な作曲家であり、2014年に「労働英雄称号」を得た。創作室室長であるウジョンヒは万寿台芸術団、旺載山芸術団、普天堡電子楽団の専属作曲家という経歴があり、2014年に「労働英雄称号」を得た。

管理職の人事を分析してみると、牡丹峰楽団の管理職陣は才能ある DPRK 軽音楽関係者が集結した組織であると指摘することができる。

## (3) 公演

牡丹峰楽団は2012年7月の「示範公演」以後、断続的に多くの公演をしてきた。金正恩による直接観覧は比較的初期に集中した。

【表4】は、牡丹峰楽団の公演を整理したものである。公演の性格と中心概念が明確でわかりやすいのも特徴の一つである。初期には公演テーマが朝鮮人民軍、朝鮮労働党、名節などが多かったが、2016年からは「ロケット」「科学技術」をテーマにした公演が増えた。ロケット開発を含めた科学技術重視路線は、DPRK が「自強力第一主義」と関連させて強調する政策目標であり、牡丹峰楽団もこの政策を忠実に公演に反映している。DPRK の音楽団の基本的な役割は、指導者を称揚し、党の方針と政府の政策を国民に伝達すること

表3 牡丹峰楽団のスタッフ

名前	職位	称号	軍階級	経歴等
玄松月	団長	不明	陸軍大佐	平壤音楽舞踊大学出身。旺載山芸術団、普天堡電子楽団で活躍。党中央委員会委員候補（朝鮮労働党中央委員会第7期第2回総会で補選／2017年10月7日）
ファンジニョン [황진영]	副団長	人民芸術家	大佐	作曲家。元、普天堡電子楽団副団長。労働英雄（2014）。
キムウンリョン [김운룡]	副団長	人民芸術家	不明	作曲家。元、旺載山芸術団団員。
チャンジョンエ [장정애]	副団長	不明	不明	不明
ウジョンヒ [우정희]	創作室室長	人民芸術家	陸軍大佐	過去、万寿台芸術団・旺載山芸術団・普天堡電子楽団の専属作曲家。労働英雄（2014）
アンジョンホ [안정호]	創作室副室長	人民芸術家	陸軍大佐	過去、万寿台芸術団・旺載山芸術団・普天堡電子楽団の専属作曲家。労働英雄（2014）
チャホグン [차호근]	創作室室員	不明	不明	不明
キルウォングン [길원근]	録音士	不明	不明	不明

表4 牡丹峰楽団の公演一覧 (2012年7月～2018年2月)

	公演日時	公演タイトル	対象となる観客、 公演の性格、 キーワード	金正恩 委員長 の観覧
①	20120706	示範公演	デビュー公演	○
②	20120728-30	戦勝節慶祝公演	朝鮮人民軍	
③	20120825	8.25 慶祝火線公演	朝鮮人民軍	○
④	20121010-14	朝鮮労働党創建 67 周年記念公演「嚮導の党を仰ぎ歌う歌」	朝鮮労働党	○
⑤	20121029	金日成軍事総合大学創立 60 周年記念公演	朝鮮人民軍	○
⑥	20121221	「光明星 3」号 2 号機の発射成功を祝う公演	ロケット	○
⑦	20130101-03	新年慶祝公演「党に従って最後まで」	朝鮮労働党	○
⑧	20130201	朝鮮労働党第 4 次細胞秘書大会参加者たちのための牡丹峰楽団、朝鮮人民軍功勳国家合唱団の合同公演「母の声」	朝鮮労働党	
⑨	20130411	朝鮮人民軍第 630 大連合部隊火線公演（祝賀訪問）	朝鮮人民軍	
⑩	20130425	朝鮮人民軍創建 81 周年慶祝公演	朝鮮人民軍	○
⑪	20130623	慈江道労働階級たちのための公演	地方住民	○
⑫	20130727	戦勝節祝賀公演「偉大な勝利」	朝鮮人民軍	○
⑬	20130802	祖国解放戦争勝利 60 周年慶祝閱兵式参加者たちのための祝賀公演	朝鮮人民軍	○
⑭	20131010-15	朝鮮労働党創建 68 周年慶祝公演「朝鮮労働党万歳」 ※牡丹峰楽団・功勳国家合唱団合同公演	朝鮮労働党	○
⑮	20131024	朝鮮人民軍第 4 次中隊長、中隊政治指導員大会参加者たちのための公演 ※牡丹峰楽団・功勳国家合唱団合同公演	朝鮮人民軍	○
⑯	20140317	公演（平壤）	平壤市民	○
⑰	20140322	公演（平壤）	平壤市民	○
⑱	20140323-0401	公演（平壤）	平壤市民	
⑲	20140402	両江道巡回公演を前にした公演	地方住民	
⑳	20140404-05	三池淵郡文化会館公演（両江道巡回公演）	地方住民	
㉑	20140406-08	大紅湍郡文化会館公演（両江道巡回公演）	地方住民	
㉒	20140409-11	恵山市両江道芸術劇場公演（両江道巡回公演）	地方住民	
㉓	20140416	朝鮮人民軍第一次飛行士大会参加者たちのための祝賀公演	朝鮮人民軍	○
㉔	20140502	松濤園国際少年団野営所国際親善少年会館公演「世の中にうらやむものはない」	松濤園国際少年団野営所竣工記念公演	
㉕	20140519-21	第 9 回全国芸術人大会参加者たちのための祝賀公演	芸術人	○
㉖	20140903-04	新作音楽会	芸術人	○
㉗	20150427-28	朝鮮人民軍第 5 次訓練幹部大会参加者たちのための公演	朝鮮人民軍	
㉘	20150907	キューバ共和国国家代表団歓迎祝賀公演 ※牡丹峰楽団・功勳国家合唱団合同公演	キューバとの国交樹立 55 周年記念公演	○
㉙	20151011-16	朝鮮労働党 70 周年慶祝公演 ※功勳国家合唱団・牡丹峰楽団合同公演	朝鮮労働党	○

㉔	20160213	地球観測衛星「光明星4」号発射成功に寄与した科学者、技術者、イロクンたちのための祝賀公演	科学者 ロケット	○
㉕	20160218	地球観測衛星「光明星4」号の成果的発射に寄与した宇宙科学者、技術者、労働者、働き手たちのための祝賀公演 ※牡丹峰楽団・功勳国家合唱団合同公演	科学者 ロケット	
㉖	20160511	朝鮮労働党第7次大会慶祝祝賀公演「永遠に我が党に従って」 ※牡丹峰楽団・青峰楽団・功勳国家合唱団合同公演	朝鮮労働党	
㉗	20161228	第1次全党初級党委員長大会参加者たちのための公演 ※牡丹峰楽団・功勳国家合唱団合同公演	朝鮮労働党	○
㉘	20170520	地上対地上中長距離戦略弾道ロケット「火星12」型開発者祝賀公演	科学者 ロケット	
㉙	20170709	大陸間弾道ロケット「火星14」試験発射成功記念音楽舞踊総合公演 ※牡丹峰楽団・功勳国家合唱団合同公演	ロケット	○
㉚	20170710	大陸間弾道ロケット「火星14」試験発射成功 科学者のための宴会	ロケット	○
㉛	20170710-12	大陸間弾道ロケット「火星14」試験発射成功記念音楽舞踊総合公演 ※牡丹峰楽団・青峰楽団・功勳国家合唱団・旺載山芸術団合同公演	ロケット	
㉜	20170730	大陸間弾道ロケット「火星14」第2次試験発射成功記念宴会 ※牡丹峰楽団・功勳国家合唱団合同公演	ロケット	○
㉝	20170730	大陸間弾道ロケット「火星14」第2次試験発射成功記念音楽舞踊総合公演 ※牡丹峰楽団・功勳国家合唱団合同公演	ロケット	
㉞	20170913-21	音楽舞踊総合公演（江原道元山市）※巡回公演 ※牡丹峰楽団・功勳国家合唱団・旺載山芸術団合同公演	地方住民	
㉟	20170925-30	音楽舞踊総合公演（咸鏡南道咸興市）※巡回公演 ※牡丹峰楽団・功勳国家合唱団・旺載山芸術団合同公演	地方住民	
㊱	20171004-14	音楽舞踊総合公演（平安北道新義州市）※巡回公演 ※牡丹峰楽団・功勳国家合唱団・旺載山芸術団合同公演	地方住民	
㊲	20171018-29	音楽舞踊総合公演（慈江道江界市）※巡回公演 ※牡丹峰楽団・功勳国家合唱団・旺載山芸術団合同公演	地方住民	
㊳	20171102-12	音楽舞踊総合公演（平安南道安州市）※巡回公演 ※牡丹峰楽団・功勳国家合唱団・旺載山芸術団合同公演	地方住民	
㊴	20171116-26	音楽舞踊総合公演（平安南道南浦特別市）※巡回公演 ※牡丹峰楽団・功勳国家合唱団・旺載山芸術団合同公演	地方住民	
㊵	20171130-1206	音楽舞踊総合公演（黄海北道沙里院市）※巡回公演 ※牡丹峰楽団・功勳国家合唱団・旺載山芸術団合同公演	地方住民	
㊶	20171213	第8回軍需工業大会参加者のための祝賀公演 ※牡丹峰楽団・功勳国家合唱団合同公演	軍事関連	
㊷	20171229	朝鮮労働党第5回細胞委員長大会参加者のための祝賀公演	朝鮮労働党	○
㊸	20180101	2018年新年慶祝公演 ※牡丹峰楽団・功勳国家合唱団合同公演	名節	
㊹	20180208	朝鮮人民軍創立70周年慶祝公演 ※牡丹峰楽団・功勳国家合唱団・旺載山芸術団合同公演	朝鮮人民軍	

にあるので、牡丹峰楽団の公演内容も、その時々  
に DPRK が強調したい内容を反映したものであ  
ると見るのが自然である。

そのほかに特筆すべきは地方住民のための全国  
巡回公演である。これは、2017年9月13日から  
江原道元山市を起点として始まった。牡丹峰楽団  
のみならず、朝鮮人民軍功勳国家合唱団（以下、  
功勳国家合唱団）・旺載山芸術団が合同で行った  
公演であり、約3ヶ月間ほとんど休みなしに195  
回の公演をした（『労働新聞』2017年12月19日）。  
牡丹峰楽団による地方住民のための公演は、DPRK  
の公式報道で確認できる限り、これまで2013年  
6月に慈江道で、そして2014年4月に両江道でお  
こなわれたのみである。2017年の国内巡回公演は  
DPRK 住民に牡丹峰楽団をはじめとする「金正恩  
時代」の音楽を浸透させることに決定的な役割を  
果たしたとみることができる。

#### (4) 曲の分析

各公演で歌われた曲の歌詞を整理・分析すると、  
大部分が指導者および党の称賛、指導者・党・国  
家への忠誠心強調、革命精神の鼓舞、戦意高揚を  
表現していることが分かる。このような歌詞の傾  
向は金正日が執筆した『音楽芸術論』で展開する  
「主体音楽」の定義に基づいている。その定義と  
は、「首領に対する限りない忠実性とそれを核に  
する党と勤労人民大衆に対する忠実性は主体音楽  
の革命性を規定する基本内容になる」ということ  
である（金正日 1992: 8）。牡丹峰楽団が歌う曲の  
歌詞内容もやはりこの規範に従っている。「金日  
成時代」や「金正日時代」に普及した有名曲を大  
胆にリメイクして歌うことも多く、その場合は、  
「(金正日) 将軍」を「(金正恩) 元帥」に変えて  
歌うことも多い。

一方で、牡丹峰楽団の新曲は、聴衆に希望を与  
えるような曲が多い。言い換えれば、若さを感じる  
ような、明るくテンポ良い曲が多い。「走って  
行こう未来へ」「行こう白頭山へ」「轟かして行こ  
う、天下第一強国」「幸福の明日」などが代表的  
といえる。特に、「走って行こう未来へ」「行こう  
白頭山へ」は他国のアイドルグループを意識した  
ような振付けも特徴的である。「幸福の明日」の

場合、メロディはマイナー調とメジャー調が混合  
されており、哀愁を帯びた印象を一部受けるが、  
歌詞はやはり非常に肯定的・積極的である。

歌詞というメッセージが強調する指導者および  
党の称賛、指導者・党・国家への忠誠心強調、革  
命精神の鼓舞、戦意高揚などの内容は、「金正日  
時代」と「金正恩時代」で大きな差はない。しか  
しこのような内容上の特徴に比べて形式は「金正  
日時代」と「金正恩時代」で大きく違う。それは  
次のような点である。

#### ① 編曲

牡丹峰楽団の曲の特徴の一つは、過去の有名曲  
を大胆に編曲して演奏するという点である。趙雄  
鉄（2015）によれば金正恩は「今日の知識経済時  
代において最先端に向かって大飛躍を起こしてい  
く躍動する時代精神に合うように新しい律動、新  
しいリズムを創造し大胆に適用するように」指導  
し、具体的には「牡丹峰楽団ではリズムを積極的  
に活用して創造する方向に向かいながら、律動を  
積極的に生かして舞台的アンサンブルの調和を実  
現することに対する」指導もしたという（趙雄鉄  
2015: 85）。これは、DPRK の音楽論における驚く  
べき変化を意味している。DPRK の音楽理論の  
基礎となっている『音楽芸術論』では、旋律（メ  
ロディー）を重視することを最も強調しており、  
さらに歌においては歌詞の思想性を高めることを  
要求している。リズムは二次的なものとされてお  
り、「音楽において、リズムのような副次的な要  
素を打ち立てて旋律を弱めるような方向に向か  
ってはならず、旋律にすべての手段を服従させる  
方向に進まなければならない」（金正日 1992: 54）、  
「編曲は我々式にしなければならない。編曲を  
我々式にするということは、リズム本位ではなく、  
旋律本位とすることをいう。名曲に基づいて様々  
な器楽作品を編曲するとき、主題旋律を生かすの  
は、我々式編曲において守るべき一貫した原則で  
ある。編曲をリズム本位にすると旋律が無視され  
たり失われたりして、何を形象しようとするのか  
わからなくなる」（金正日 1992: 94）としており、  
演奏においても作曲・編曲においても音楽性がリ  
ズム重視に向かうことを厳しく戒めている。もち  
ろん「旋律ではリズムも非常に重要である。リズ

ムは旋律の進行を時間的に規制する手段として旋律の流れに脈拍を与えて活力をもたらす重要な役割をする」(金正日 1992: 70)とも言及しているが、ここにおけるリズムとは民族的拍子を重視することを意味している。

一方、「金正恩時代」に求められるリズムとは、牡丹峰楽団の演奏から分かる通り、より現代的で速度感のあるものである。民族的なリズムというよりは、他国のポップスなどと共通性があるように思える。このように、「金正恩時代」は、「金正日時代」の音楽観に基礎を置きながらも、リズムに関しては現代的な感覚に合うように柔軟に解釈していることがわかる。これは DPRK の音楽芸術における大きな変化であろう。

編曲の事例として、ここでは「愛国歌」(朴世永作詞、金元均作曲、1947年)、「一気に」[단숨에]](ユンドグン [윤도근] 作詞、ファンジニョン [황진영] 作曲、2009年)の二曲を挙げる。

牡丹峰楽団は、2012年7月28日～30日の「戦勝節慶祝公演」で初めの部分を大胆に編曲した「愛国歌」を演奏した。第1節は弦楽器が伴奏を行い、比較的静かな雰囲気の中で観客は歌った。第2節は、ドラム演奏を背景にエレクトリック・ギターのソロ演奏で始まった。これまで厳粛な雰囲気で行われてきた「愛国歌」が大胆に編曲されたことは非常に特徴的であり、このような編曲の仕方を「愛国歌」に適用するのはこれまでなかったと指摘できる。趙雄鉄(2015)も「リズムを積極的に生かして新味を高めた牡丹峰楽団の創造活動は、敬愛する元帥の積極的な指導のもとに創作完成された《愛国歌》と《根元になろう》の音楽形象だけ見てもよく分かる」と指摘しており、やはり「愛国歌」を事例として挙げている<sup>(18)</sup>。

「一気に」は2003年に創作された曲であり、元々は普天堡電子楽団の曲であった。これまで、功勳国家合唱団などで繰り返し歌われてきた。「一気に」は元々それほど早いテンポで歌う曲ではなかったが、牡丹峰楽団が演奏したリメイク版の「一気に」はテンポ速く軽快な曲となり、ヴァイオリンがメインのインストロメンタル・ミュージックとなった。2013年1月1日～3日に行われた牡丹峰楽団の「新年慶祝公演」党に従って最後まで

では、「一気に」の編曲版を初めて披露した。火花などを使った派手な舞台演出と演奏者が激しく動きながら演奏する姿に合わせて観客が声をあげて踊る場面は、舞台と観客が一体になったような雰囲気醸成しており、これまでの DPRK 音楽公演ではほとんど見られないものであった。

## ②外国曲の演奏

2012年7月6日に開いた示範公演では外国曲、特に米国の映画音楽やアニメーション音楽を演奏した。演出も米国のアニメーションキャラクターの着ぐるみを登場させるなど、今までなかった演出をした。また、米国映画の代表格である「ロッキー」のテーマソングを、映画の一場面を背景板に投影しながら演奏をした。これらの選曲に対しては、DPRK の米国に対するメッセージではないのかという解釈が可能であった。

## ③クロスオーバーエレクトリックオーケストラ(crossover electronic orchestra)

牡丹峰楽団の音楽性を考えるうえで重要なのはクロスオーバーエレクトリックオーケストラである。オギヒョン(2014)が指摘するように、英国のボンド(Bond)との類似点も多い(オギヒョン 2014: 65)<sup>(19)</sup>。しかし、ボンドの演奏スタイルも、元々は90年代に人気を得たヴァネッサメイ(Vanessa-Mae)のオルタナティブミュージック(alternative music)やフュージョン(fusion)というスタイルから影響を受けていると言える。牡丹峰楽団と一番類似点を持つグループとしては、ハンガリーのプリンセスオブヴァイオリン(Princess of violin)がある。

電子弦楽器を駆使してクラシック音楽からポップソングまでカバーするクロスオーバーエレクトリックオーケストラというスタイルは、2000年代初めにはヨーロッパですでに確立されており、人気を博していた。DPRKでは、このような音楽の世界的傾向を取り込みつつ牡丹峰楽団の音楽スタイルを作り上げていったのではないかと推測できる。

## (5) 牡丹峰楽団の社会的地位：第9回全国芸術人大会

金正恩は牡丹峰楽団の公演を何度も観覧し、直接評価もしている。党、国家、軍の最高職位にあ

る金正恩が牡丹峰楽団の公演を積極的に観覧しているという事実は、牡丹峰楽団が DPRK 社会において特別な地位にあることを明確に示している。

芸術界での牡丹峰楽団の地位を決定した最も重要な場面は、2014年5月16日から17日にかけて平壤市の4.25文化会館で開催された第9回全国芸術家大会である。大会には牡丹峰楽団メンバーが全員参加し、大会初日に牡丹峰楽団団長である玄松月が演説をした<sup>(20)</sup>。玄松月はこの演説で、牡丹峰楽団が DPRK 国内で最も影響力のある楽団の一つになったと報告した。大会閉幕後である19日、牡丹峰楽団公演「第9回全国芸術人大会参加者たちのための祝賀公演」が開かれた。この公演の意味は、芸術界最高峰となった牡丹峰楽団の創作気風を公演を通して大会参加者が学び、これからの芸術活動に生かすようにするというメッセージであると分析できる。

第9回全国芸術人大会の評価は『労働新聞』2014年6月3日付社説「牡丹峰楽団の創造気風で名作創作の火の手を勢いよく燃え上がらせよう」で発表された。この社説では牡丹峰楽団の社会的地位について「牡丹峰楽団の創造気風は最短期間に我々の文学芸術が世界を圧倒し主体の社会主義文明強国建設を一日も早く早めるようにする、力ある推進力である。…新しい文学芸術革命の機関車になって偉大な金正恩時代を先導していく牡丹峰楽団のような国家的な芸術団体を有しているのは、われわれ党と人民のこの上なく大きな誇りである」と言及された。同社説では、金正恩の「文学芸術部門の指導イルクンと作家、芸術家は牡丹峰楽団の創造気風を見習って芸術創作創造活動において革新を起こさなければなりません」という発言も紹介された。

なお、同社説で言及されているように、DPRKの政策的な視点で見れば牡丹峰楽団の存在を社会主義文明強国の文脈として捉えるという見方は十分可能である。社会主義文明強国は、金正恩が2012年4月6日に朝鮮労働党中央委員会責任イルクンに対して述べた談話の中で提示した概念である(金正恩2012)。ここで示された「文明」とは、教育・保健医療・文学芸術・スポーツなどの分野において、インフラ整備と人々による文化

実践が高い水準でなされた状態を示す。社会主義文明強国の建設は、現在の DPRK において非常に重要な政策目標であり、実際のインフラ整備のみならず、文化表象の次元にも政策が投影されている<sup>(21)</sup>。

金正恩は、第9回全国芸術人大会に直接参加はしなかったものの、「時代と革命発展の要求に合わせて主体的文学芸術の新しい全盛期を開いていこう」という書簡を大会参加者宛に送った。この書簡で、金正恩は「文化芸術部門において固まりついた枠と古い図式にとらわれ時代の息づかいが脈打つ名作、千万軍民を強盛国家建設と社会主義守護戦へ力強く駆り立てる戦闘性とアピール力が強い作品を生み出せなくなっていることを指摘」し、「文化芸術部門が停滞状態に陥っている」と批判した。そして「時代の要求」「時代と革命発展の要求」を強調し、「名作の滝で党の先軍領導を奉ろう」を文学芸術界のスローガンとすることを提案した。

金正恩はこの書簡で、「牡丹峰楽団が創造した革新的な創造気風は作家、芸術人が見習わなければならないよい見本になります」と言及し、牡丹峰楽団の創造気風を「党が与えた課題を何日徹夜してでも最上の水準で完全無欠に実践する決死貫徹の精神、既成の形式と枠組みから抜け出し革新的見識で絶えず新しいものを作り出す斬新で進取的な創造熱風、互いに助け導きつつ実力戦を広げていく集団主義的競争熱風」と定義した。このような創造気風を基礎として、①芸術界において他国との芸術交流を活発化すること②現実の中に入り、人民の情緒に合わせて人民が好む芸術作品を創造すること③芸術を大衆化すること④芸術部門を科学化すること⑤作家、芸術人育成事業を活発化すること⑥党組織による芸術界への支援を充実させていくこと、など多面的かつ具体的な方策についても提示した。

第9回全国芸術人大会を通して、牡丹峰楽団は DPRK 国内の最高峰の楽団として認定された。それは技術的な面における認定というよりは、芸術家たちの基本姿勢を変革する必要性を訴えるための認定であった。言い換えれば、「金正恩時代」の時代精神を最も的確に発露しているのが牡丹峰

楽団であり、同楽団のような「金正恩時代」の時代精神を発露させる芸術作品を音楽分野のみならず他分野でも生み出せという指令であったのである。牡丹峰楽団は「金正恩時代」の芸術界のモデルとなり、音楽界だけでなく他の芸術分野でもいわゆる「牡丹峰楽団モデル」が拡張していくことが路線となった。このような文脈上に、2014年9月3日～4日に開催された牡丹峰楽団の「新作音楽会」を位置づけることができる。牡丹峰楽団の創造気風によって形象化した作品を披露する場がすなわち「新作音楽会」であったのである。したがって、この「新作音楽会」は芸術家のための公演であった解釈できるであろう。

第9回全国芸術人大会を通して牡丹峰楽団が地位を確立して以来、牡丹峰楽団のリーダーシップが実践に移された。これは2015年7月27日に開催された功勳国家合唱団の公演が事例として最もわかりやすい。功勳国家合唱団は、DPRKが社会経済的危機に陥った「苦難の行軍」期から金正日委員長の「音楽政治」の中心として活躍してきた。重厚な演奏および歌で有名であったが、2015年7月27日の公演は、それまでの功勳国家合唱団の公演とはスタイルを変え、牡丹峰楽団の演奏・演出形式に類似した点が多くなっていった。牡丹峰楽団が登場して以来、牡丹峰楽団の演奏・演出形式を取り入れた群衆音楽や大学生による公演は増えつつあったが、いわゆる「牡丹峰楽団モデル」が初めて国家的楽団の次元で適用された事例と捉えてよいだろう。

### 3. 青峰楽団の特性分析

青峰楽団は2015年7月に創設が発表された(朝鮮中央通信2015年7月28日)<sup>(22)</sup>。青峰楽団を「わが国のもう一つの国宝的な芸術団体」「生き生きとして新しく優雅な姿」と表現された(『朝鮮中央年鑑2016』2016:471)。

青峰楽団は、牡丹峰楽団に比べて約3年遅れて創設され、現在までのところ公演数も多くはない。

#### (1) 楽団系譜

牡丹峰楽団が普天堡電子楽団を継承しつつも独

立した新設楽団であるのとは違い、青峰楽団は旺載山芸術団内部の新設ユニットである。2015年7月28日『朝鮮中央通信』の報道によって青峰楽団内に「旺載山芸術団の実力ある演奏家」が存在することは知られたが、その時点ではまだ独立した楽団であるという見方が強かった。2016年1月1日に行われた公演名が「旺載山芸術団青峰楽団 新年慶祝音楽会」と発表された時点で青峰楽団は旺載山芸術団の内部組織であることが確定した。

青峰楽団の公演スタイルを分析してみると、歌手が主演で演奏者が助演という点は旺載山芸術団のスタイルを一部踏襲しているものの、旺載山芸術団の最大の特徴の一つであった舞踊が青峰楽団では見られなくなった。

また、青峰楽団の歌手は、普天堡電子楽団内の女性重唱組であった「牡丹峰重唱組」から移籍した人物たちである。この点を考慮すれば、青峰楽団は旺載山芸術団に所属するが普天堡電子楽団のカラーを部分的に受け継いだと見ることも可能である。

「金正日時代」の軽音楽路線は、普天堡電子楽団と旺載山芸術団がその両輪であったが、「金正恩時代」は牡丹峰楽団と青峰楽団が両輪となった。楽団系譜的には、「金正日時代」の軽音楽路線を引き継ぎ発展させたと解釈することができる。

#### (2) 公演内容

青峰楽団は現在まで10回の公演を行った。詳細は【表5】の通りである。

青峰楽団の場合、初公演がDPRK国内ではなく海外であったという点が興味深い。この公演はロシアがDPRK芸術団を招いた形で進んだ。つまり、朝口外交と関係が深い公演であったのである。DPRKとロシアは2015年を「朝口親善の年」と定め、同年4月にはモスクワで「朝口親善の年」開幕式を開いた。青峰楽団のロシア訪問は、この「朝口親善の年」を記念して実現した。この公演で青峰楽団が歌った歌は「女性重唱『ロシア娘の歌連曲』をはじめとしてロシア人民が愛する歌」であった(朝鮮中央通信2015年9月8日)。

先に言及したように、青峰楽団は金正恩の直接的な指導によって創立された「国宝的な芸術団

表 5

回数	日時	公演会場	公演名	形式
1	20150831	・モスクワ チャイコフスキー名称音楽堂（チャイコフスキーコンサートホール）	功勳国家合唱団公演 ※青峰楽団が功勳国家合唱団の公演に部分出演	部分参加
2	20150901	・モスクワ モスクビッチ文化センター	功勳国家合唱団公演 ※青峰楽団が功勳国家合唱団の公演に部分出演	部分参加
3	20150903	・ハバロフスク ハバロフスク辺境音楽劇場（ミュージカル劇場）	功勳国家合唱団公演 ※青峰楽団が功勳国家合唱団の公演に部分出演	部分参加
4	20151011	・平壤 人民劇場	朝鮮労働党創建 70 周年慶祝 青峰楽団公演	単独公演
5	20160101	・平壤 人民文化宮殿	旺載山芸術団青峰楽団 新年慶祝音楽会	単独公演
6	20160216-0218	・平壤 烽火芸術劇場	光明星節慶祝 旺載山芸術団青峰楽団公演	合同公演
7	20160511	・平壤 柳京鄭周永体育館	朝鮮労働第 7 回大会慶祝 牡丹峰楽団、青峰楽団、功勳国家合唱団合同公演「永遠に我が党に従って」	合同公演
8	201608/29, 20160831-09/02	・平壤 4.25 文化会館	金日成社会主義青年同盟第 9 回大会参加者たちのための青峰楽団、功勳国家合唱団合同祝賀公演	合同公演
9	20170710-12	・平壤	大陸間弾道ロケット「火星 14」試験発射成功記念音楽舞踊総合公演 ※牡丹峰楽団・青峰楽団・功勳国家合唱団・旺載山芸術団合同公演	合同公演
10	20170727	・平壤	祖国解放戦争勝利 64 周年慶祝芸術公演 ※青峰楽団・功勳国家合唱団、旺載山芸術団合同公演	合同公演

体」である。「国宝的な芸術団体」を DPRK 国内でなくロシアで初めて披露したということは、朝口関係を重視しているからこそであり、インパクトのある公演開催を狙った朝口の考えが一致したと見ることができよう。

### (3) 楽団構成員

青峰楽団の構成員は歌手 11 人と演奏者 15 人である。牡丹峰楽団のように歌手と演奏者の両者が主役になるスタイルではなく、歌手が基本的に主役であり、演奏者はバックアップバンドである。牡丹峰楽団は電子弦楽器・サキソフォン・ドラムなどが積極的にアップテンポで演奏するスタイルだったが、青峰楽団はそうではない。ビオラやトロンボーン、ベースなど中低音を支える楽器を中心に、演奏の音を厚くしている。青峰楽団のこの

ような演奏スタイルは牡丹峰楽団との差異化を図っているようである。

また、牡丹峰楽団はオールフィーメールバンドだが、青峰楽団は歌手は女性であり演奏者は男女混合である。演奏パートのうちに金管楽器（トランペット、トロンボーン）・木管楽器（サキソフォン）の演奏者 4 人は全て男性である。朝鮮中央通信が青峰楽団を「金管楽器中心の軽音楽」と規定した点を考慮すれば、金管楽器（トランペット、トロンボーン）が青峰楽団の演奏面の要諦になると見ることができる（朝鮮中央通信 2015 年 7 月 28 日）。

#### 4. もう一つの「見本楽団」：三池淵管弦楽団

三池淵管弦楽団は、2018年2月9日から2月25日まで韓国江原道平昌郡で開催された2018年第23回オリンピック冬季競技大会（以下、平昌オリンピック）に派遣することを目的に編成された楽団である。メンバー構成は、万寿台芸術団三池淵楽団が基礎となり、青峰楽団・牡丹峰楽団の歌手・演奏家加わった。特に、歌手は全員青峰楽団所属である。団長は玄松月である。玄松月は牡丹峰楽団の団長でもあり、現在（2018年8月）牡丹峰楽団団長の職位から離れたという報道は確認できないため、両楽団の団長を兼任していると見るのが自然である。

三池淵管弦楽団は2月8日に江陵で公演を行い、2月11日にソウルで公演を行った。公演内容は【表6】の通りである。

このうち韓国の歌謡曲は、「Jへ」（李仙姫）、「旅

程」（WAX）、「男は船 女は港」（沈守峰）、「離別」（パティキム [패티김]）、「あなたはご存じないでしょう」（ヘウニ [헤은이]）、「愛」（羅勲児）、「愛の迷路」（崔辰熙）、「みんなで一緒にチャチャチャ」（雪雲刀）、「日が昇る日」（宋大瑄）、「昨日降った雨」（尹亨柱）、「崔進士宅の三番目の娘」（李銀河）、「独りアリアン」（ソユソク [서유석]）であるが、原曲を歌った歌手のうち、過去平壤で行われた音楽公演に出演した経験を持つ人物が多い。李仙姫が2003年にSBS主催「統一音楽会」（平壤）に出演したことは有名であるが、パティキムも2000年に平壤で行われた平和親善音楽祭に登壇した。また、羅勲児は1985年9月に芸術公演出演のために平壤を訪問している（『統一ニュース』2018年1月15日<sup>(23)</sup>）。

また、曲タイトルや歌詞を見ると「正月の雪よ、降り（설눈아 내려라）」を「白い雪よ、降り（흰눈아 내려라）」と変更したり、「走って行こう、未

表6 三池淵管弦楽団の公演内容（江陵、ソウル）

曲順	内容
1	序曲「お会いできて嬉しいです」（서곡「반갑습니다」）
2	白い雪よ 降り（흰눈아 내려라）
3	女性重唱「平和の歌 鳩よ、高く飛べ」（여성중창「평화의 노래 비둘기야 높이 날아라」）
4	軽音楽「我が国が一番良い」（경음악「내 나라 제일로 좋아」）
5	女性二重唱「Jへ」（여성2중창「J에게」）
6	女性独唱「旅程」（여성독창「여행」）
7	歌舞「走って行こう 未来へ」（가무「달려가자 미래로」）
8	弦楽協奏と女性独唱「新星」（현악합주와 여성독창「새별」）
9	管弦楽 親しみのある旋律：アリアン、剣闘士たちの入場、モーツァルト交響曲第40番、トルコ行進曲、遙かに遠い道、ジブシーの歌、黒い瞳、トッカータ、落葉、オペラ座の怪人、ティコティコ、チャルダッシュ、オールド・ブラック・ジョー、赤い河の谷間、白鳥の湖、子どもが生まれたとき、ユー・レイズ・ミー・アップ、スケーターズワルツ、ラデッキー行進曲、カルメン序曲、ウィリアムテル序曲、オーソレミオ、オールドラングサイン、フニクリ・フニクラ、輝く祖国（관현악 친근한 선율：아리랑, 김투사들의 입장, 모짜르트교향곡 40번, 뛰르끼예행진곡, 아득히 먼길, 김시의 노래, 검은 눈동자, 또까마, 락엽, 가극극장의 유령, 띠꼬띠꼬, 찰르디쉬, 흑인령감 쵸, 레드강 골짜기, 백조의 호수, 아이가 태어났을 때, 그대 나를 일으켜 세우네, 스케트 타는 사람들의 알즈, 라데찌키 행진/카르멘 서곡, 월웬름 텔 서곡, 나의 해님, 오랜 우정, 푸니콜리 푸니콜라, 빛나는 조국）
10	歌の連曲：男は船 女性は港、離別、あなたはご存じないでしょう、愛、愛の迷路、日が昇った日、みんなで一緒にチャチャチャ、昨日降った雨、崔進士宅の三番目の娘、独りアリアン（노래연곡：남자는 배 여자는 항구, 리 (이) 별, 당신은 모르실거야, 사랑, 사랑의 미로, 해뜰날, 다함께 자자자, 어제 내린 비, 최진사택 셋째딸, 홀로아리랑）
11	女性3重唱「白頭と漢祭は私の祖国」（여성3중창「백두와 한나는 내 조국」）
12	われらの願いは統一（우리의 소원은 통일）
13	また会いましょう（다시 만납시다）

来へ」の歌詞を一部変えたりするなど、韓国側に十分に配慮したことがわかる。

三池淵管弦楽団は2月16日に平壤で帰還公演を行った。帰還公演で行われた演目は公開されているわけではないが、『労働新聞』によると、DPRKの曲だけでなく南側（韓国）の曲も演奏したということであるから、江陵公演およびソウル公演とほぼ同じ演目もしくは類似の演目を演奏したと推定できる（『労働新聞』2018年2月17日）。この帰還公演は三池淵管弦楽団を公式的にDPRK国内で披露した公演であった。

その後、三池淵管弦楽団は、平昌オリンピックにおける公演を金正恩から評価され、楽器一式を贈られた。のみならず、朝鮮労働党中央委員会宣伝扇動部副部長である朴光浩の演説中の言葉ではあるが「金正恩同志が贈ってくださった楽器には、三池淵管弦楽団を我が党の音楽政治を戦闘で奉っていく見本芸術団体として、世界人類級の管弦楽団として打ち出そうという大きな信心と愛が宿っている」と明確に示された（『労働新聞』2018年4月7日）。ここにおいて、三池淵管弦楽団はDPRK芸術界における「見本楽団」となった。牡丹峰楽団と三池淵管弦楽団が芸術界においてどのような位置関係にあるのか現在のところ明らかになっていないが、牡丹峰楽団は創立当初に受け持った使命を一定程度果たしたとして役割が縮小し、南北交流や国際交流の舞台には三池淵管弦楽団が前面に出てくるという可能性がある。その場合、「音楽政治」が国内向けの概念から国際的な文化交流の概念を含むそれへと拡大していくだろう。

三池淵管弦楽団登場後、万寿台芸術団三池淵楽団が公式舞台に登場していないこと、そして三池淵管弦楽団が一時的な特別編制楽団ではなく「見本楽団」として常設化されたことを鑑みると、三池淵管弦楽団はすでに万寿台芸術団三池淵楽団ではなく、万寿台芸術団から分離独立した楽団となったと指摘してよい<sup>(24)</sup>。

米朝首脳会談の時に、玄松月が金正恩に帯同したが、三池淵管弦楽団を親善楽団として米国に送り公演することを米国側に提起した可能性が高い。2008年にニューヨーク・フィルハーモニーが平

壤を訪問して公演を行ったが、10年後の今年「答礼」という形でニューヨークで三池淵管弦楽団が公演を行う可能性も考えられる。三池淵管弦楽には朝鮮国立交響楽団のような伝統はないが、実力あるオーケストラなので、ニューヨーク・フィルハーモニーと格式においても釣り合う。

## おわりに

本稿では、「金正恩時代」の音楽政治について特徴を整理・考察した。理論的な考察を展開したというよりも、代表的な楽団の内容分析を通した具体的な記述を試みた。

まず、「金正恩時代」の「音楽政治」を具現化する存在として牡丹峰楽団の存在があることを指摘した。管見の限り、先行研究でも「金正恩時代」の「音楽政治」の分析とはすなわち牡丹峰楽団の分析となっている。牡丹峰楽団公演のパフォーマンスや演出、舞台美術は現代的で華麗であり、アメリカやヨーロッパ、韓国・日本などと比べてもクオリティに遜色がない。クロスオーバーエレクトリックオーケストラを実践していることも、それまでのDPRK楽団にはない部分であり注目された。

牡丹峰楽団は、楽団系譜としては、「金正日時代」の代表的軽音楽団であった普天堡電子楽団を継承している。しかし、楽団構成員・パフォーマンス・演出などを分析した結果、それは単純な発展・継承とはいえないことがわかった。歌手中心の公演ではなく、インストロメンタル・ミュージックも幅広くおこなうというスタイルは、クラシック楽団の系譜も引き継いでいるといえる。歌手・演奏家は、一流楽団所属の経歴をもつ人物だけではなく、才能ある若手も大胆に登用していた。また、牡丹峰楽団の管理職（スタッフ）はDPRK国内の最優秀人物が集結しており、楽曲・パフォーマンス・演出などの質を十分に担保していることも分かった。

一方、DPRKの音楽団の基本的な役割は、指導者を称揚し、党の方針と政府の政策を国民に伝達することにあり、牡丹峰楽団の公演内容も、その時々DPRKが強調したい内容を反映したもので

あることが分かった。したがって、形式においては大きな転換を遂げた一方、内容においては「金正日時代」と本質的な変化はないことが指摘できる。

牡丹峰楽団は、2014年5月に行われた第9回国芸術人大会において DPRK 芸術界最高峰の楽団に位置づけられた。のみならず、金正恩の直接的言及により、牡丹峰楽団の「創作気風」はすべての芸術家が見習うべきものとなり、そのための具体的な措置も提起された。第9回国芸術人大会は、「金正恩時代」の音楽政治における重要な転換点となったのである。

また、牡丹峰楽団より約3年遅れる形で、もう一つの軽音楽団である青峰楽団が創設された。楽団系譜的に見ると、「金正日時代」の軽音楽路線を普天堡電子楽団と旺載山芸術団が担ったように、「金正恩時代」の軽音楽路線は牡丹峰楽団と青峰楽団が牽引する形となった。

さらに、2018年には平昌オリンピックに合わせる形で三池淵管弦楽団が創設された。三池淵管弦楽団は韓国に派遣するために臨時に編成された楽団かと思われたが、4月には「見本楽団」として常設となったことが明らかになった。現在のところ、音楽面における南北交流や国際交流を担当していくと予想される。青峰楽団や三池淵管弦楽団の登場で、牡丹峰楽団の位相に変化が生じる可能性はあるが、牡丹峰楽団は音楽政治において「金正恩時代」の基礎を築いた功労楽団と言えるので、その社会的地位にはしばらく変化がないのではないかと予想される。

本稿で指摘したように、2012年から現時点における「音楽政治」とは、すなわち牡丹峰楽団といっても過言ではない。いまや、牡丹峰楽団の存在は音楽界を越え芸術界全体が見習うべきものとして確立され、全国巡回公演を通して住民にも定着した。言い換えれば、牡丹峰楽団とは「金正恩時代」の時代精神の発露であり、最高指導者である金正恩が描く DPRK 社会のイメージである。したがって、牡丹峰楽団を分析することは金正恩が目指している国家像、より具体的にいえば「社会主義文明強国」の一端を解明することになる。本稿はそのための小さな一歩であるともいえる。

日本の DPRK 研究においてはこれまで文化的側面にあまり光が当てられてこなかった。文化研究から DPRK に接近する重要性を強調しつつ本稿を閉じたい。

謝辞：本研究は JSPS 科研費 JP15K21499 の助成を受けたものです。

#### 〈主要参考文献〉

##### (一次資料)

##### 新聞社・通信社記事

『ロ동신문』.

『조선중앙통신』 (<https://kcnakp>).

『조선통신』 (<http://www.kcna.co.jp>).

『문학신문』.

##### 年鑑・辞典

『조선문학예술년감』 (문학예술출판사 편), 문학예술출판사.

『조선중앙년감』 (조선중앙통신사 편), 조선중앙통신사.

『KCTI 북한문화동향』 (한국문화관광연구원 편), 한국문화관광연구원.

『조선대백과사전』.

##### 雑誌

『조선예술』 (문화예술출판사).

『예술교육』 (2.16 예술교육출판사).

##### 単行本、論文

김정은 [金正恩] 2012. 「위대한 김정일동지를 우리 당의 영원한 총비서로 높이 모시고 주체혁명위업을 빛나게 완성해나가자 조선로동당 중앙위원회 책임일군들과 한 담화 주체 101 (2012) 년 4월 6일」 『우리민족끼리』 (<http://www.uriminzokkiri.com/index.php?ptype=great&subtype=rozak&no=6063>). 2018年8月30日アクセス。

김정일 [金正日] 1992. 『음악예술론』 평양, 조선로동당출판사.

리동욱 [リドンウク] 2017. 『주체음악예술교육사에 길이 빛날 불멸의 업적』 평양, 사회과학출판사.

조선문학예술총동맹 중앙위원회 편찬 [朝鮮文學藝術總同盟中央委員會編纂], 황지철·김득청·현수용 집필 [ファンジ Chol·キムドクチョン·ヒョンスウン] 2002. 『20세기 문예부흥과 김정일 5 음악예술』 문학예술출판사.

조웅철 [趙雄鉄] 2015. 「경애하는 김정은동지는 모란봉악단을 우리 식의 독특하고 새로운 경음악단으로 꾸려주신 위대한 령도자이시다」 『경애하는 김정은동

지는 선군문화예술의 탁월한 영재』 평양, 사회과학출판사, pp. 78-93.

전중혁 [チョンジョンヒョク] 2015. 「모란봉악단을 주체혁명의 새시대 본보기악단으로 강화발전시키신 경애하는 김정은동지의 불멸의 업적」 『역사과학』 2015년 4호, 평양, 과학백과사전출판사, pp. 47-48.

채희원·원충국 [チェヒウォン·ウォン충국] 2017. 『김정은장군과 시대어 1』 평양, 백과사전출판사.

イ・ヴェ・スターリン著、スターリン全集刊行会訳 1953 『スターリン全集』 第12巻、大月書店。

趙雄鉄 2014. 「牡丹峰楽団は朝鮮スタイルのユニークで新しい軽音楽団」 『코리아研究』 5号、pp. 173-182.

その他

조선언론정보기지 (KPM, 데이터베이스).  
조선노래대집집 삼일포 2.0 (CD) 조선컴퓨터센터 삼지연정보센터.

(二次資料 (先行研究))

単行本

강동완 [칸돈완] 2014. 『모란봉악단 김정은을 말한다』 서울, 선인.

김영주·이범수 [김영주·이범수] 엮음 1999. 『현대 북한 언론의 이해』 서울, 한울.

김채원·박계리·이지순·전영선·천현식 [김채원·박계리·이지순·전영선·천현식] 2013. 『예술과 정치—북한문화예술에 대한 이해—』 서울, 선인.

북한연구학회 [北韓研究学会] 2006. 『북한의 방송언론과 예술: 북한학 총서 북한의새인식 8』 서울, 경인문화사.

북한연구학회 기획, 전미영 편 [北韓研究学会企画、チョンミョン編] 2015. 『북한연구학회 연구총서-03 김정은 시대의 문화: 전환기 북한의 문화현실과 문화기획』 파주, 한울아카데미.

오기현 [오기현] 2014. 『남북 문화 교류의 창 평양결그룹 모란봉악단』, 고양, 지식공감.

전영선·한승호 [전영선·한승호] 2018. 『NK POP 북한의 전자음악과 대중음악』 서울, 글누림.

李喆雨 2012. 『朝鮮音樂: 金正恩第1委員長時代へ』 레インボー出版.

學術論文など

강동완 [칸돈완] 2015. 모란봉악단 “제5차 훈련일꾼대회 참가자를 위한 기념공연” 의미와 전망」 『국제정치연구』 18(2), pp. 45-65.

노동은 [노동은] 2002. 「북한중앙음악단체의 현황과 전망」 『한국음악사학보』 제 28집, pp. 65-122.

송명남 [宋明男] 2015. 「『모란봉악단』을 통해 보는 조

선의 문화정책과 인민생활」 『朝鮮大学校学报』 vol. 25, pp. 149-168.

천현식 [천현식] 2015. 「모란봉악단의 음악정치」 『2015 신진연구 논문집』 통일부 북한자료센터 편, pp. 505-614.

모리 토모오미 [森類臣] 2015. 「모란봉악단, 그 존재는 무엇을 의미하는가?」 (일반 발표문), The World Conference on North Korean Studies 2015.

모리 토모오미 [森類臣] 2016. 「예술 공연 ‘추억의 노래’ 가 가지는 의미」 『북학연구학회보』 제 20 권 제 2호, pp. 125-152.

모리 토모오미 [森類臣] 2018. 「조선민주주의인민공화국 ‘김정은 시대’의 경음악 노선—모란봉악단, 청봉악단을 중심으로—, 국제고려학회 서울지회 엮음 『한국학과 조선학, 그 쟁점과 코리아학 1』 패러다임, pp. 361-385.

배인교 [배인교] 2012. 「2012년 북한의 음악공연과 예술」 『남북문화예술연구』 통권 제 13호, pp. 283-301.

하승희 [하승희] 2015. 「북한매체의 노래 전과과정 연구—김정일·김정은 집권 시기를 중심으로—」 『통일연구』 제 19 권 제 2호, pp. 113-157.

하승희 [하승희] 2015. 「북한 로동신문에 나타난 음악정치 양상—「로동신문」1면 악보를 중심으로」 『문화정책논총』 제 29 집 2호, pp. 232-261.

홍성규 [홍성규] 2014. 「북한 서정가요의 주제와 음악분석」 고려대학교 박사학위논문.

徐玉兰 [徐玉兰] 2016. 「金正恩时期的朝鲜“音乐政治”传播」 『新闻记者 (Shanghai Journalism Review)』 2016 No. 08, 第 402 期, pp. 80-87.

Cathcart, Adam, Christopher Green, and Steven Denny 2014. “How Authoritarian Regimes Maintain Domain Consensus: North Korea’s Information Strategies in the Kim Jong-un Era” *The Review of Korean Studies*, Vol. 17 No. 2, pp. 145-178.

Cathcart, Adam and Pekka Korhonen 2017a. “Death and Transfiguration The Late Kim Jong il Aesthetic in North Korean Cultural Production” *Popular Music and Society*, Vol. 40(4), pp. 390-405. Authors’ final version.

Korhonen, Pekka and Adam Cathcart 2017b. “Tradition and Legitimation in North Korea: The Role of the Moranbong Band” *Review of Korean Studies* Vol. 20(2), pp. 7-32. Authors’ final version.

(1) 本稿では、職位は基本的に現職名を使用した。  
(2) 『20世紀文芸復興と金正日』は文化芸術面における金正日の業績をまとめた叢書であるが、第5巻は音楽分野について論じている。  
(3) 『조선통신』 [朝鮮通信] (<http://www.kcna.co.jp/>)

- calendar/2014/05/05-10/2014-0510-008.html) 2018年8月30日アクセス。
- (4) 『조선통신』[朝鮮通信] (<http://www.kcna.co.jp/calendar/2014/05/05-10/2014-0510-008.html>) 2018年8月30日アクセス。
- (5) 「金正恩時代」においては、「金正日時代」との紐帯を強化する音楽公演も行っている。詳しくは森類臣(2016)を参照。
- (6) 『朝鮮新報』は住民の反応を次のように紹介している。「電子楽器を駆使する軽音楽団は過去にもあったが、女性のための編成というのは新しい。銀河水管弦楽団の公演も新しさがあったが、牡丹峰楽団はより大衆的というか、若い世代の感覚に合うというか、楽器演奏の水準がよいし、出演者が感情を全身で表現し、それぞれが趣ある演奏する姿が印象に残った。演目はもちろん、出演者の衣装や動作、照明など舞台の一般的な構成が新しいと感じた」(『朝鮮新報』2012年7月)
- (7) 2017年の地方巡回公演のように、同一名称・同一内容の公演を会場を変えずに一日2回～3回行ったり、数日間連続的に行う場合もある。そのため、厳密に言えば公演回数はもっと多いと言える。本稿では、上記のような公演のケースは「1回」と数えている。したがって「50回」というのはあくまで便宜的な数字である。
- (8) 『조선통신』[朝鮮通信] (<http://www.kcna.co.jp/calendar/2015/07/07-28/2015-0728-006.html>) 2018年8月30日アクセス。
- (9) DPRKのメディア・コミュニケーション理論については、キムヨンジュ・イボムス(1999)を参照。
- (10) スターリンはソ同盟共産党(ポリシェヴィキ)第16回大会にたいする中央委員会の政治報告において、「プロレタリア独裁のもとでの民族文化」を「内容においては社会主義的、形式においては民族的なもので、社会主義と国際主義の精神で大衆を教育し、プロレタリアートの独裁を強化することを目的とする文化である」と定義している(イ・ヴェ・スターリン1953: 389)。
- (11) 金正日『音楽芸術論』は書籍としては1992年6月20日に朝鮮労働党出版社から発行されたが、内容自体は1991年7月17日に発表したとされている。
- (12) 本稿では、西洋楽器の弦楽器・管楽器・打楽器・鍵盤楽器を中心とした一定規模の編成(いわゆるオーケストラ)を持った楽団を意味することとする。
- (13) 『朝鮮大百科事典』は軽音楽を「軽音楽は印象深い旋律と軽いリズム、自然でありながらも単純な和声と多様な音色的変化、簡潔な構造など複雑ではない内容と形式をなしている。楽器編成は簡潔でありながらも多様である。民謡、抒情歌謡、映画主題歌、行進曲、舞曲など多様な形式の楽曲を軽音楽の編成に合わせて通俗的な音楽形象として創造することを基本としている」と定義している(『조선대백과사전』2, 1995年, p. 127)。
- (14) 『조선통신』[朝鮮通信] (<http://www.kcna.co.jp/calendar/2012/12/12-31/2012-1231-029.html>) 2018年8月30日アクセス。
- (15) 青峰楽団の歌手が牡丹峰楽団で歌うことがあるが、それらはあくまで一時的な出演であり、「移籍」ではないという見解を本稿筆者(森)は持っている。したがって、本稿で挙げた牡丹峰楽団の構成員は、明らかに牡丹峰楽団所属としか考えられない人物に限っている。
- (16) 【表1】については、DPRKの公式メディアによる情報を基本に、チョンヒョンシク(2015)、チョンヨンソン・ハンスンホ(2018)、Pekka Korhonen(The University of Jyväskylä)が整理しているサイト「Moranbong Band Discography」(URL: <https://morandisco.wordpress.com/>)を参考にした。【表2】【表3】についても同様である。なお、チョンヨンソン・ハンスンホ(2018)では歌手のキムオクジュを青峰楽団から牡丹峰楽団に移籍したとしているが、筆者(森)は、キムオクジュはあくまで青峰楽団所属であり、一時的に牡丹峰楽団の公演に出演しているだけであると解釈している立場であるため、本稿ではキムオクジュを牡丹峰楽団の構成員とはしなかった。
- (17) チョンヒョンシク(2015)は車英美の担当楽器をビオラだとしているが、趙雄鉄(2014)は「ヴァイオリン3本とチェロ1本で構成した」と述べているので、ヴァイオリンが正しいと思われる(趙雄鉄2014: 177)。
- (18) 「愛国歌」の分析については、水野直樹(元京都大学人文科学研究所教授、現立命館大学客員教授)による示唆が大きい。
- (19) ボンドについては次の記事を参照。  
「Escala v Bond: battle of the girl quartets」『The Telegraph』2009年4月17日(<http://www.telegraph.co.uk/culture/music/classicalmusic/5172062/Escala-v-Bond-battle-of-the-girl-quartets.html>) 2018年8月30日アクセス。
- (20) 第9回全国芸術人大会で玄松月が演説した内容の一部は以下の通り。「われわれ牡丹峰楽団は誕生して2年も経過していません。芸術団体の歴史を見てもそうですし、芸術人の人生でも縁というものは一瞬にすぎません。しかし、今、牡丹峰楽団という名前は誰にとっても親しみ深く愛くるしい存在となっており、楽団の歌は兵士と人民の大切な一部分となっています。われわれ自身も驚くほど短い期間に全国

の青年・人民の関心と人気を集め、歴史が長い芸術団体に負けない名声を得た今日は、敬愛する元帥の天のような信心と温かい器を離れては想像もできません」。

- (21) 社会主義文明強国と「金正恩時代」の文化（音楽）の関連性についての分析は本稿では紙幅の関係上十分に展開できないので、別途機会をとらえて発表する予定である。
- (22) 『労働新聞』2015年7月28日に「(青峰楽団構成員は) 旺載山芸術団の実力ある演奏家たちと牡丹峰重唱組の核心的役割をしていた歌手たちが網羅された」と掲載されたため、日韓の大部分のマスメディアでは、「牡丹峰重唱組」を「牡丹峰楽団」であると解釈して報道した。一方、本稿筆者（森類臣）は2015年8月19～21日にオーストリアのウィーンで開かれた「the 12th International Conference of Korean

Studies」(International Society for Korean Studies 主催) で「日韓のマスメディアで報じられている説は間違いであり、牡丹峰重唱組とは普天堡電子楽団内にあったユニットである」と報告した。この学会会議には朝鮮社会科学院所属の研究者が何人か参加していたが、本稿筆者の主張に対して正しい指摘であるとコメントした。

- (23) 『통일뉴스』[統一ニュース] (<http://www.tongilnews.com/news/articleView.html?idxno=123455>) 2018年8月30日アクセス。
- (24) 『労働新聞』2018年10月11日によると、三池淵管弦楽団劇場が平壤市内の普通江沿いに近々開館する予定であることが明らかにされ10月10日に金正恩が現地指導した。これにより、三池淵管弦楽団が単独の独立した楽団となったという見方が確定的となった。